

国語 第5学年 熟語の読み方 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：熟語を構成する漢字の音と訓を確かめ、音と訓を組み合わせる読み方にも注意して文中で正しく読む。読みの分類を覚えるだけでなく意味と文脈を結び付ける。B(1)オの学習として、漢字ごとの音・訓の印、熟語の意味、その語を使った自作文。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、読み札や文を読み返し、読みと意味が合うかを確かめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)オの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：漢字ごとの音・訓の印、熟語の意味、その語を使った自作文を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)オに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：つまり児童にはどんな支援をするか。

返し：熟語はすべて音読み同士と思い込む、読みを分類しても意味を説明できない。これに対して、独自例「本棚」「手帳」を辞書で調べ、漢字ごとの音・訓の別を確かめる。各語を短い文で使い、読み方だけでなく文の意味も説明する。教科書固有の問題は転載しない。〔知識及び技能〕(1)エとB(1)オを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「この熟語は、どの漢字を音で読み、どの漢字を訓で読んでいますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)オに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：漢字ごとの音・訓の印、熟語の意味、その語を使った自作文は紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)オの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)オで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：この教材で、誤りやすい点をどう確かめるか。

返し：熟語はすべて音読み同士と思い込む、読みを分類しても意味を説明できない。独自例「本棚」「手帳」を辞書で調べ、漢字ごとの音・訓の別を確かめる。各語を短い文で使い、読み方だけでなく文の意味も説明する。教科書固有の問題は転載しない。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「この熟語は、どの漢字を音で読み、どの漢字を訓で読んでいますか」への答えを学習前後で読み比べる。
変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)オに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

